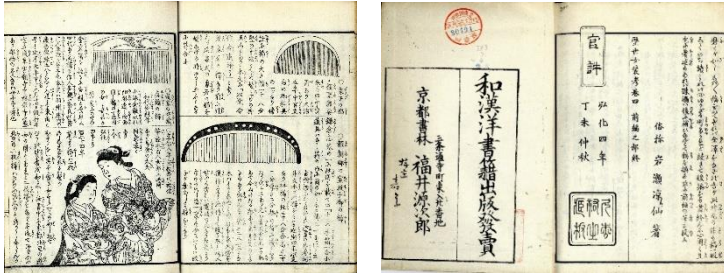


れきせいじょそうこう

#42 歴世女装考

作者：岩瀬百樹（いわせ・ももき 1769-1858）

刊行：弘化4年（1847）



[383/71]

 解題

■ 内容

『歴世女装考』は古代からの女性の装いを文献、絵画で考証したもの。日本女性の装いの起源を探る資料。全4巻で構成され、各冊には春・夏・秋・冬の名前が付いている。「春」の巻頭におかれた付言によると、文政2年(1819)に友人の北川真顔に贅を頼まれたのをきっかけに女性の装いについて考証を始めたという。途中資料を火事で失うなど苦労し、書名も幾度か変わり、29年後の弘化4年（1847）に刊行されたようである。

鏡・櫛・笄(こうがい)・簪(かんざし)・紅・おしろいから衣類履物に至るまで、古今の移り変わりを和漢の古書によって考証しており、文献の引用箇所はおよそ550、引用文献は300余り、その他の絵や人の話は22箇所にとぶという(『山東京山年譜稿』)。「冬」巻末には詳細な後編の目録が載せられているが、刊行されることはなかった。

『山東京山年譜稿』によると、諸本は多く、安政2年(1855)の刊記を持つ版(国会図書館、東京都立中央図書館など)、明治になってからの後刷り(津逮堂吉野家(大谷)仁兵衛板、松山堂藤井利八板、福井源次郎板など)と思わ

れる版もあるが、弘化4年(1847)刊と判断できる資料は未発見だという。当館所蔵本の奥付には「京都書林 福井源次郎」の名前が確認できる。

■ 作者

作者の山東京山は、江戸時代後期の戯作者。本名岩瀬百樹。江戸深川の質商、岩瀬伝左衛門の次男に生れる。兄は戯作者の山東京伝。

多数の合巻、読本を残しており『昔模様娘評判記』『大晦日曙草子』『教草女房形気』などがある。合巻の分野では徳川期において最多の作品数を残し、江戸後期から幕末までの出版文化を知る上での貴重な資料である。また考証随筆のための研究も積極的に行い『歴世女装考』『蛛の糸巻』などは風俗資料として重要とされている。篆刻家としても活躍した。

📖 本文を読む

< 翻刻 >

「歴世女装考」（『百家説林 続編 中』吉川弘文館 1905）

※当館未所蔵 国立国会図書館デジタルコレクション（デジタル送信）で閲覧可能

「歴世女装考」（『日本随筆大成』第3巻 吉川弘文館 1927）[914.08/1/3]

< 影印 >

「歴世女装考」（『江戸時代女性文庫』18 大空社 1994）※当館未所蔵

< デジタル >

奈良女子大学学術情報センター 所蔵資料電子画蔵集 女性関連資料

「歴世女装考」 ※翻刻付き

📖 参考文献

『山東京山年譜稿』津田真弓著 ペリかん社 2004 [913.53NN/105]

『山東京山：江戸絵本の匠』津田真弓著 新典社 2005 [910.8/33/33]

神山勝広「山東京山と万屋和助：『歴世女装考』刊行に関わる謎」

（『同志社国文学』81 同志社大学国文学会 2014）

※当館未所蔵 同志社大学学術リポジトリで閲覧可能